

V 主な事業の取り組み状況

1 学校教育・青少年健全育成

(1) 小中一貫教育の充実

① 英語教育の充実

<平成 29 年度実績>

○教育課程特例校制度(文部科学省)を生かした英語教育の推進

- ・ 1・2年生は担任とALTで隔週1時間、3～6年生は担任と英語科教師とALTで毎週1時間、英語の授業を実施
- ・ ALT(外国語指導助手)2名を派遣(委託)

(小)週4日勤務(22時間)×45週 (中)週5日勤務(35時間)×45週

○英語教室(ホームステイランゲージ)の実施(教育委員会主催)

- ・ 日時:月曜日6限 ・ 対象:8年生(6～10月) 7年生(11月～2月)
- ・ 目的:海外派遣事業に向けたより実践的な英会話を学ぶこと

○児童英検の実施

- ・ 対象(実施日):5年生(2月1日) 6年生(1月30日)
- ・ 英語学習の入門期に大切と考えられているリスニング形式。英語を聞いてイラスト等につく。全国規模で実施され、成績データは客観性が高い。
- ・ 平均正答率:BRONZE(5年生受検) 飛島小平均88% 全国平均86%
SILVER(6年生受検) 飛島小平均86% 全国平均84%

○英語能力判定テストの実施

- ・ 対象(実施日):8年生(2月15日)
- ・ ①語い・熟語・文法 ②英文構成 ③読解 ④リスニングの4分野で出題され、分野別英語力を知ることができる。また、実用英語技能検定(英検)の受検目安を把握することができる。
- ・ 英語能力判定テスト結果 (39名受験)
準2級レベル(1名) 3級レベル(16名) 4級レベル(21名) 5級レベル(1名)

<点検及び評価>

○小中一貫教育の柱の一つである英語教育を推進するために、ALTを学園に常時派遣して、1年生から英語の授業を実施し、7・8年生に英語教室(ホームステイランゲージ)を実施した。外国人とのコミュニケーションの機会を増やすことができ、英語教育への取り組みが意欲的になってきた。

○8年生に実施した英語能力判定テストでは、3分の1以上の生徒が3級以上のレベルにあり、英語技能の定着が認められる。

② 通学路交通安全指導委託

<平成 29 年度実績>

○交通指導員の配置(シルバー人材センター委託)

- ・ 生徒の登下校時の交通安全指導

【登校時】・1時間×201日×7人

- ・ 村内7箇所・・・県道交番前、交差点6(渚、役場南西、竹之郷農免、竹之郷三丁目、松之郷村道、元松神社東)

【下校時】・1～3時間×200日×1人 ・1箇所(県道交番前)

<点検及び評価>

○交通量は多いが大きな事故もなく、交通指導員の配置による成果は大きい。

③ ICT支援委託

<平成 29 年度実績>

- ICT教育支援員の派遣
 - ・ タブレット型 PC 等の ICT 機器活用支援、校務用 PC の活用支援・教材作成、教職員向け ICT 機器活用研修
 - ・ 8 時間×69.5 日（1 名）

<点検及び評価>

- 生徒が ICT 機器を活用する際、支援に入ることによってスムーズに授業が行われた。
- 8 年生の海外派遣、9 年生の広島派遣の報告会における ICT 機器の活用支援を行うことで、生徒が堂々と発表する態度が見られた。報告会参加者から高い評価を得ることができた。

④ 小中一貫教育検証等

<平成 29 年度実績>

- 小中一貫教育についての理解促進
 - ・ 9 年間の連続性のある一貫教育の推進のため、岐阜聖徳学園大学教授の玉置崇先生を講師に迎え、現職教育を行った。
 - ・小中の教員合同による道徳の研究授業及び協議会を 14 回実施し、校長経験者等により指導を受け、飛島学園の共通の授業メソッドについて研究を進めた。
- 「小中一貫教育全国サミット in 京都」へ参加
 - ・ 日時：平成 30 年 1 月 25 日(木) 26 日(金)
 - ・ 研究主題：「子どもたちの可能性を最大限に伸ばす義務教育 9 年間への更なる挑戦」
- 小中学校の縦割り活動及び異学年交流授業の推進
 - ・ 交流行事：入学式・ふれあい交流会・体育祭・卒業式等
 - ・ 中学校教員による小学校の一部教科担任制(社会・理科・図工・家庭科)

<点検及び評価>

- 小中の教員が合同で研究授業と協議会を行った結果、9 年間で積み上げるべき授業技術や方向性について共通理解を図ることができた。
- 小中一貫教育を進めるにあたり、講師の玉置先生より指導助言をいただくことで、全教職員が成果や課題に関する認識を共有することができた。
- 小中一貫教育全国サミットに参加し、全国の先進的な取り組みについて研修することができた。小中学校職員の協働や 9 年間の学びの連続性については、平成 30 年度からの飛島学園の研究課題でもあり、大変参考となった。
- 義務教育学校開校を視野に入れ、教育課程の工夫、一貫した英語教育、教職員・保護者・地域への小中一貫教育についての理解促進に努める必要がある。

⑤ 水泳授業への指導員派遣

<平成 29 年度実績>

- 水泳指導員の配置
 - ・ 目的：泳力向上と安全指導のため。初級・中級・上級に分けて指導
 - ・ 10 時間×6 学年 各時間講師 2 名

<点検及び評価>

- 8 割以上の小学生が、水泳を「好き」と回答し、高学年の約 8 割が 25m 以上泳ぐことができた。今後も配置を継続していきたい。

⑥ 学校給食事業

<平成 29 年度実績>

○学校給食の調理を業者委託（平成 22 年～）

- ・調理員・・・毎日 10 名を配置
- ・調理実施日・・・191 日、食数・・・85,280 食（平均 446 食/日）
- ・食物アレルギーをもつ生徒への学校給食対応について、ガイドラインを作成し、教職員、調理員に周知

<点検及び評価>

○調理員を毎日 10 名配置することで、ガイドラインに沿った学校給食の対応をすることができ、生徒に安心して安全な給食を提供することができた。

⑦ 非常勤講師雇用事業

<平成 29 年度実績>

○非常勤講師の配置

《小学校》算数の少人数指導、社会・図工・書写・音楽の授業、特別支援学級の補助

22 時/週×35 週 770 時間/年(1 名) 21 時/週×35 週 735 時間/年(2 名)

20 時/週×35 週 700 時間/年(1 名) 19 時/週×35 週 665 時間/年(1 名)

11 時/週×35 週 385 時間/年(1 名) 10 時/週×35 週 350 時間/年(1 名)

《中学校》国語・数学の少人数授業、家庭科・技術の授業、特別支援学級の補助

10 時/週×35 週 350 時間/年(1 名) 14 時/週×35 週 490 時間/年(1 名)

15 時/週×35 週 525 時間/年(1 名) 18 時/週×35 週 630 時間/年(1 名)

○特別支援教育支援員の配置

・肢体不自由学級生徒を中心に授業補助

18.6 時/週×35 週 652 時間/年(1 名) 9.5 時/週×35 週 332 時間/年(1 名)

○図書館司書の配置

・メディアセンター蔵書整理、図書の購入、調べ学習時の参考図書レファレンスサービス

・1,472 時間/年(1 名)

<点検及び評価>

○1～6 年生の算数授業での少人数指導は、学校評価アンケートから「理解しやすい」という回答が多くあった。

○中学校教員や非常勤講師が、5・6 年生の授業に入る一部教科担任制の実施は、7 年生授業へのスムーズな移行へ繋がっている。

○特別支援教育支援員が授業補助に入ることで、肢体不自由学級の生徒が通常学級の生徒と一緒に取り組む内容が増えた。また、通常学級に在籍する支援を要する生徒の指導にあたることで、落ち着いて授業を受けることができるようになってきた。

○図書館司書を配置することで、生徒がメディアセンターを利用する機会が増え、読書や調べ学習の取り組みが意欲的になっている。

○非常勤講師の配置は、中学校では臨時免許で授業を行う必要がなくなるだけでなく、教員が教材研究を行う時間の確保に繋がっている。小学校では少人数指導に入ることで、教員による個別指導の時間が減少している。教員の働き方改革の有効な手立てとなっている。

(2) 地域と連携した学校教育の推進

① 総合学習講師派遣

<平成 29 年度実績>

○中学校「職場体験」

- ・ 飲食業を経営する方によるマナー及び職業講話を実施した。

○小学校「野菜づくり体験」

- ・ 5年生が地域の農家の方から野菜づくりを学び、夏野菜を栽培した。収穫したトマトを使い、地域の食生活改善委員の指導でトマトスコーンを作り、学園の人たちに配った。

<点検及び評価>

- 講師派遣をすることで、生徒が生々の声を聴いたり、体験したりすることができ、生徒に「働くこと」の意味や意義、職場でのマナー等、将来必要な職業人としての知識をつけることができた。

(3) 小中学生の心身の健康づくり

① スクールカウンセラー配置

<平成 29 年度実績>

○保護者や生徒の相談活動を実施

○中学生全員と、年 2 回の個別面談を実施

○不登校支援のケース会議に出席

- ・ 200 時間/年(2名)

<点検及び評価>

- 週 4 日、スクールカウンセラーを配置することで、保護者や生徒の相談に迅速に応えることができ、早期の対応に繋がった。
- ケース会議では、教員がスクールカウンセラーより、生徒個人の実態に合わせた専門的なアドバイスを受けることができ、よりの確な指導に活かすことができた。

② Q-Uアンケート

<平成 29 年度実績>

○Q-Uアンケート実施(年 2 回)

- ・ 目的：登校しぶり、いじめの被害者や加害者、学校生活の意欲が低下している生徒を早期に発見し、早期に対応するため。また、よりよい学級を運営するため。

○アンケート結果分析講習会の実施

- ・ 講師：岩田 和敬 氏
- ・ 小中合同で結果資料の活用方法を研修した。
- ・ 各学級や生徒一人一人の状況への対策についてアドバイスを受けた。

<点検及び評価>

- アンケートの実施や結果の活用方法を研修することで、学級担任が生徒一人一人の内面や対人関係をより把握しやすくなり、学級経営を進める上で、有効に活用することができた。

③ いじめ問題対策

<平成 29 年度実績>

- 飛島村いじめ問題対策連絡協議会の開催
- 飛島学園のいじめ・不登校対策協議会を開催(2回)
- 中学校生徒指導委員会を開催(毎月)
 - ・不登校生徒への対応策について協議を重ね、共通理解のもとで対応を行う。
- 村校長会を開催(毎月)
 - ・心配な生徒の状況等を情報共有し、対応を協議した。

<点検及び評価>

- 飛島村いじめ問題対策連絡協議会では、関係機関が出席し、具体的な例を挙げてワークショップ型の研修を行い、活発な意見交換を行うことができた。いざというときの対応について共通理解を図ることができた。
- いじめ・不登校については、学校、教育課で迅速に情報共有をすることができ、関係機関とも連携して対応することができた。

(4) 就学支援の充実

① 教育支援事業

<平成 29 年度実績>

- 経済的な理由により就学困難な家庭へ、学用品等購入費、給食費等の支給
 - 【小学校】 4名
 - 【中学校】 4名
- 特別支援教育就学奨励費として、学用品等購入費の支給
 - 【小学校】 5名
 - 【中学校】 1名

<点検及び評価>

- 各学期末に就学援助費の支給を行い、就学支援を行った。
- 特別支援教育就学奨励費を支給し、保護者の経済的な負担の軽減を行った。

(5) 学習環境の充実

① 施設管理維持管理事業

<平成 29 年度実績>

- 施設の保守等を実施

体育用具遊具点検	1回	浄化槽保守	26回
消防設備保守	2回	電気保安保守	6回
総合環境衛生(清掃)	随時	学校警備	常時
体育祭会場設営	1回	除草作業	4回
エコキュート保守	2回	グラウンド整備	2回

<点検及び評価>

- 専門知識をもった業者により施設保守等を実施した。
- 継続して委託することにより、施設の長寿命化を図り、不具合・故障のあった箇所は早期に修繕を実施することができた。